第2回21世紀漢方フォーラム「総合医の漢方教育を考える」
～総合医療現場からの提言～

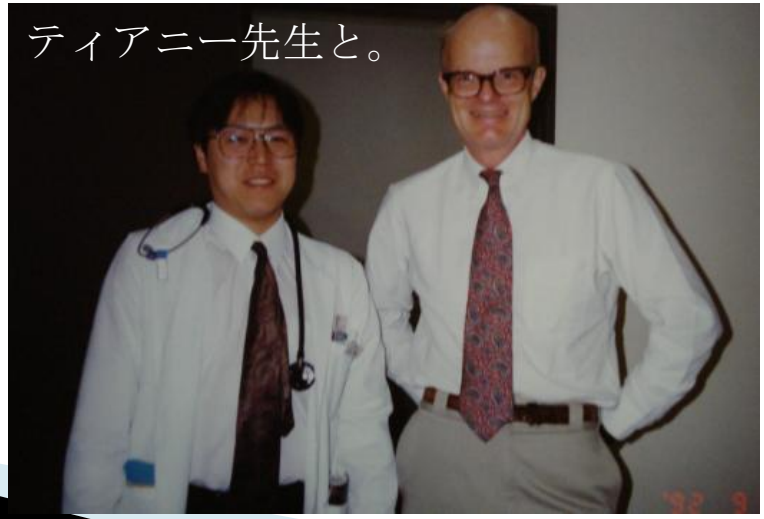
トータルファミリーケア北西医院
（静岡県富士市）
北西　史直

富士五湖
身延山
神奈川県
下部
南ヶ岳
七面山
朝霧高原
富士山
富士スピードウェイ
小山
大井松田
秦野
南足柄
富士山
白糸の滝
トータルファミリーケア　北西医院
御殿場
箱根
笹山
金時山
小田原
越前岳
強羅
南部
富士宮
芝川
裾野
箱根
湯河原
愛鷹山
沼津
富士
三島
真鶴
新富士
熱海
竜爪山
静岡県
沼津
三島
函南
熱海
清水
大瀬崎
伊豆の国
初島
静岡
日本平
伊豆
伊東
達磨山
岡部
土肥
一碧湖
駿河湾
天城山
城ヶ崎
藤枝
焼津
伊豆
黄金崎

富士市　人口26万人

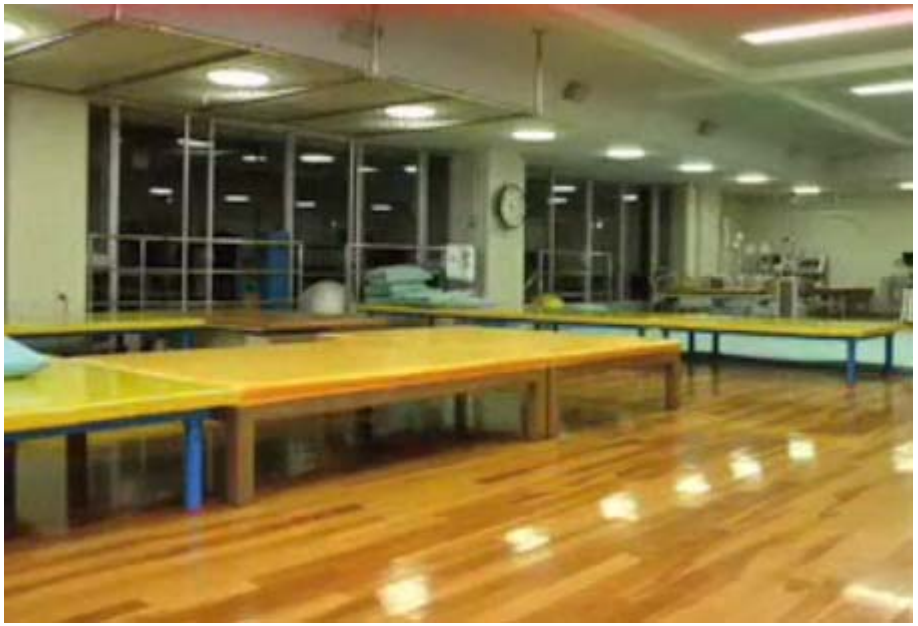
自己紹介

昭和42年　静岡県富士市生まれ
昭和60年　静岡県立富士高等学校卒業
平成　3年　東京慈恵会医科大学卒業
平成　3年　国立東京第二病院内科系初期研修医
平成　5年　国立東京第二病院総合診療科後期研修医
平成　7年　東京慈恵会医科大学総合内科・救急診療部助手
平成11年　杉山病院（静岡県沼津市）内科医



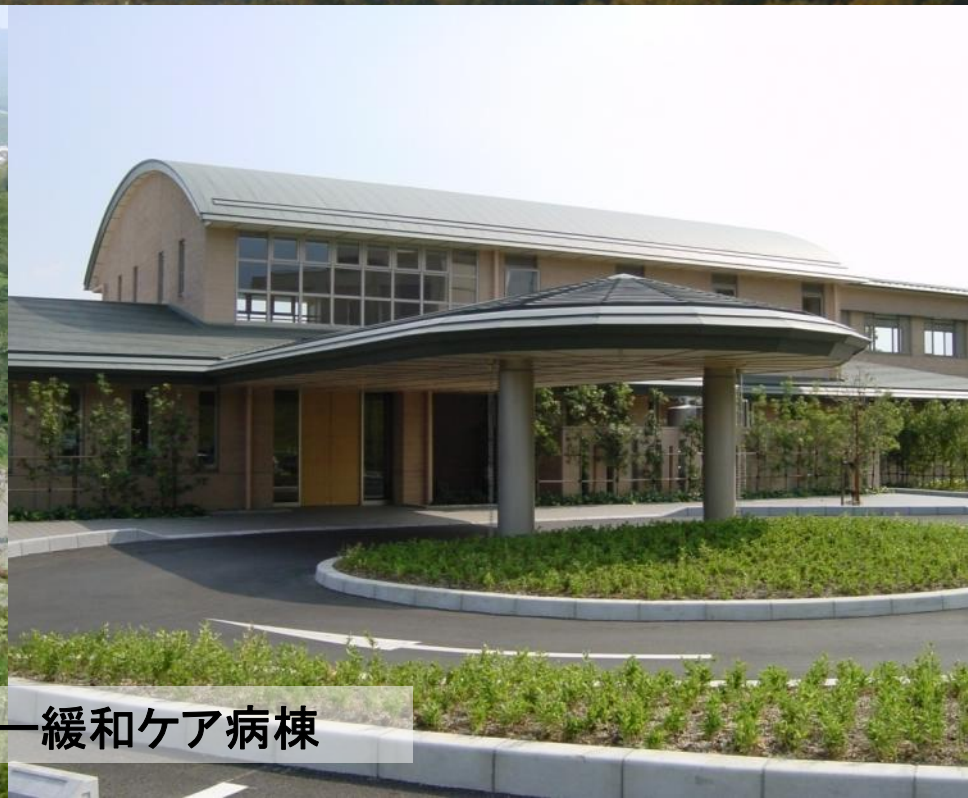
Profile 2

平成１４年
NTT東日本伊豆病院
リハビリテーション科



Profile 3

平成１６年　静岡県立静岡がんセンター緩和医療科



静岡がんセンター緩和ケア病棟

平成１７年　東京医療センター小児科レジデント

Profile 5

平成18年
国立成育医療センター思春期科・発達外来短期研修

産科・婦人科・乳腺外来等
women's health短期研修

Profile 6-1

相澤病院（松本市）
急性期リハ短期研修
平成18年10月～12月

平成１８年
同時に 相澤病院 褥創・外傷診療短期研修

平成１９年　西伊豆病院整形外科、僻地医療短期研修
同時に、ＮＴＴ東日本伊豆病院皮膚科週１回外来研修

西伊豆仁科漁港

平成19年トータルファミリーケア北西医院開業
標榜科目：内科、小児科、婦人科、
心療内科、整形外科、皮膚科

読売新聞　全国版　平成20年2月22日朝刊

12 版　くらし (14)

医療ルネサンス　No.4291

医療を変える　開業医　3

多様な病気を診る家庭医

静岡県富士川町の主婦、藤真樹さん（34）は、隣の富士市で開業する医師、北西史直さん（41）に、親子3世代でかかっている。真樹さんと5歳、1歳の2人の息子、それに近くに住む両親だ。

以前は、親子で風邪をひくと息子を小児科に連れていき、自分は受診を我慢するか、別の内科医院に行った。「私の診療のために、病気の子を別の医院に連れていくのはかわいそう。今は親子一緒に診てもらえるので助かります」と言う。

北西さんの医院は、70年以上前から続く産婦人科医院だった。2代目である北西さんの父が5年前に産科を廃業、昨年4月、北西さんが跡を継ぎ、「トータルファミリーケア北西医院」として生まれ変わった。掲げる診療科目は、内科、小児科、婦人科、心療内科、整形外科、皮膚科と幅広い。往診も行い、昨年秋からは、発熱などで登園できない園児らを預かる病児保育も行っている。

「地域のかかりつけ医として、年齢を問わず、診療科の枠を超えたあらゆる健康問題に対応したい」

日本の医師は従来、内科、外科、さらに消化器内科、循環器内科などに分かれ、自分の専門分野以外は診ないことが多かった。

一方、欧米には様々な病気を診ることができる「家庭医（総合医）」が多くいる。北西さんは医学部時代から「そうした家庭医になりたい」と考えた。卒業後、内科系の病気を幅広く診療する「総合診療科」のある旧国立病院で研修した。

別の病院のリハビリテーション科に移ったころから、開業を決意。3年間、各地の病院を渡り歩き、小児科、産婦人科、整形外科、がんの緩和医療、思春期診療などの研修を受けた。

その時、既に30歳代後半。年下の医師にも指導をあおいだ。研修医の身分では、給料は常勤医の半分ほどで、貯金もできない。それでも、苦にならなかった。

家庭医に対し、「あらゆる病気を診るなんて無理」「誤診するのでは」と冷ややかな専門医もいるが、多様な病気を診る能力こそ、患者は身近な医師に求めている。

開業して10か月が過ぎ、北西さんは「風邪などありふれた病気、髄膜炎などの一刻を争う病気、がんなどの重大な病気。これらの特徴を押さえて診断し、病院に紹介できれば、地域医療に必要な役割は果たせるのでは」と実感する。

「病院の医師が高度医療に専念するためにも、開業医は基本的な診療全般を引き受けるべきだ」と北西さん。「総合診療」研修の充実など、家庭医を養成する仕組みが求められる。

院内にあるキッズコーナーで患者親子に声をかける北西さん（右）＝静岡県富士市で

家庭医　日本では、様々な病気を総合的に診療する医師を、「家庭医」「プライマリーケア医」「総合（診療）医」などと呼ぶ。それぞれに学会があり、共同で研修プログラムを作成することを検討中。「総合診療科」を設置する病院も増えており、全国に約300か所ある。

テレビ版「医療ルネサンス」はCS「日テレG＋」で放送中。番組表は http://www.yomiuri.co.jp/stream/

くらし　家庭

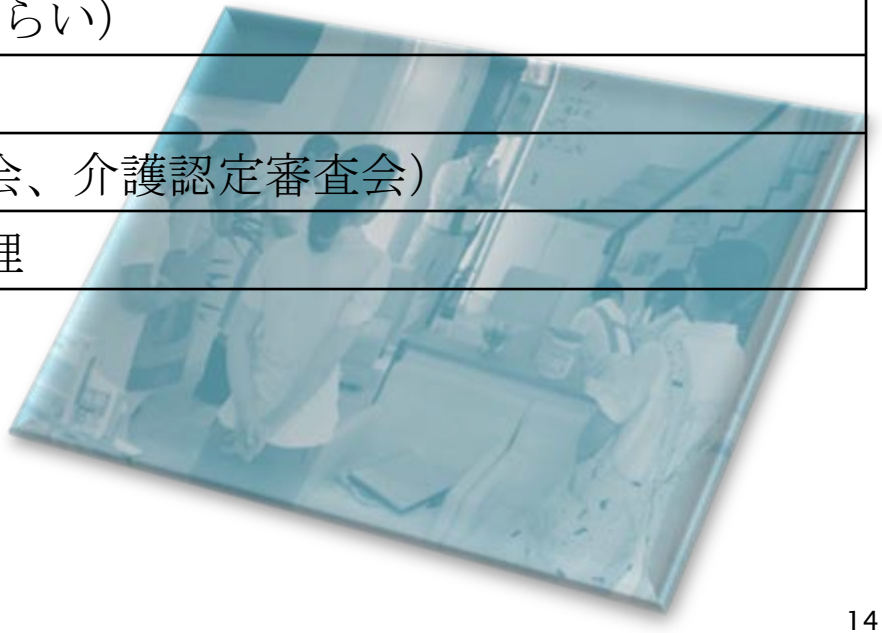
休診日に慶応大学漢方クリニック研修

写真3
専門医の元で学ぶ開業医も

慶応大の渡辺賢治氏（左）の診察に同席して学ぶ北西史直氏（右）。

1日のスケジュール

7：00～	開院準備
7：30～8：45ころ	早朝診療＋保育室入室診察
9：00	朝礼
9：10～12：45ころ	午前診療
昼休み	（1歳半健診、富士常葉大学講義、サービス担当者会議、ミーティング、院内勉強会）
14：00～16：00	訪問診療（2件くらい）
16：00～18：45ころ	午後診療
夕食	（講演会、医師会、介護認定審査会）
20：00～23：00	カルテ・書類整理



現在の在宅症例リスト

T.K.	86歳女性	脳梗塞（右片麻痺、失語症）、認知症、気管支炎（入院）
Y.Y.	83歳女性	脳梗塞（左片麻痺）、PEG、膀胱留置カテーテル
K.N.	73歳女性	脳梗塞（右片麻痺）、排尿障害（膀胱留置カテーテル）、胆石疑い＋大腸がん（入院）
T.H.	81歳男性	脊髄小脳変性症、膀胱ろう
F.W.	92歳女性	心不全、認知症、下痢
Y.S.	101歳女性	心不全、高血圧、糖尿病
T.I.	80歳男性	糖尿病（インスリン）、多発性脳梗塞
K.T.	88歳女性	認知症、運動器不安定症（パーキンソン+廃用）、心不全
M.M.	88歳女性	認知症、腰痛（圧迫骨折の疑い）
Y.K.	87歳女性	認知症、変形性股関節症
J.O.	81歳男性	脊髄小脳変性症、PEG
R.S.	94歳女性	認知症、転倒後左肋骨骨折など

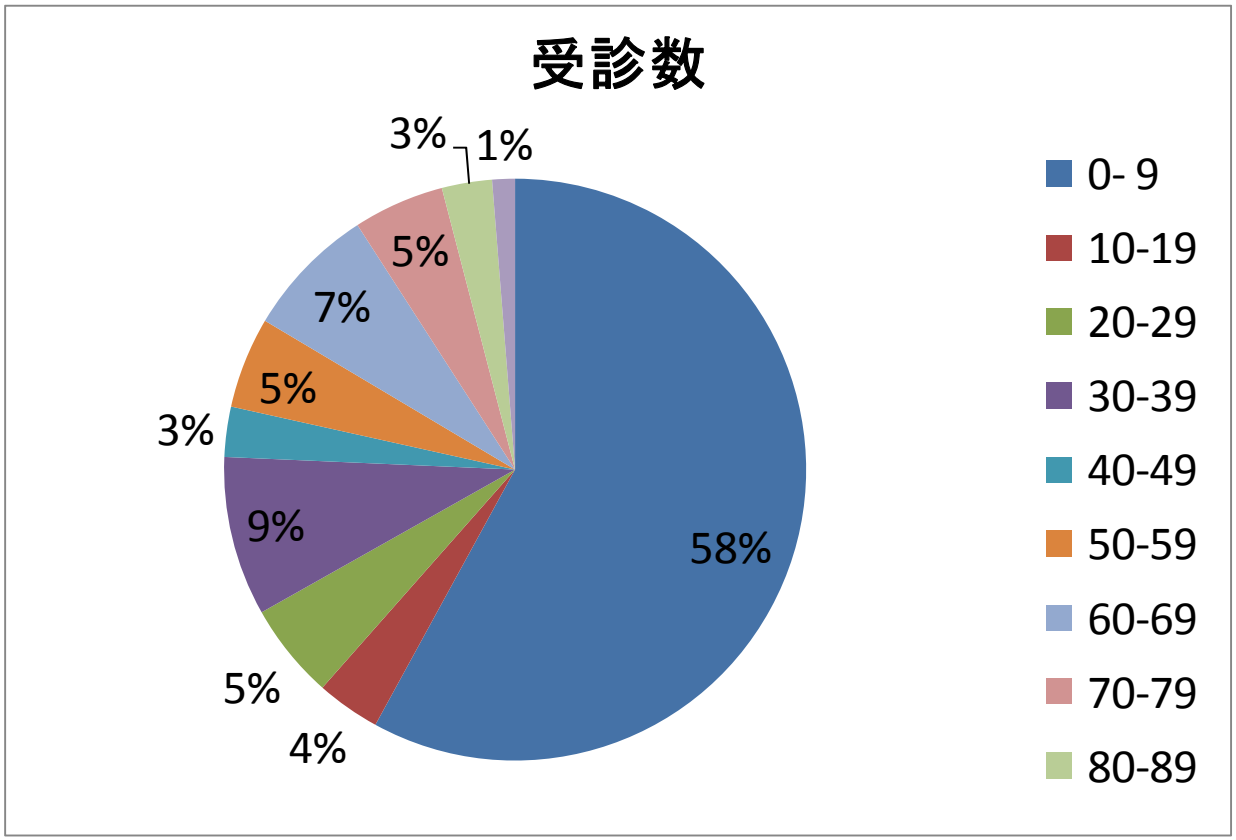
11月の外来（保険診療）受診状況

（北西史直医師）

男性43.3%　女性56.7%

年齢

0– 9	58%
10–19	4%
20–29	5%
30–39	9%
40–49	3%
50–59	5%
60–69	7%
70–79	5%
80–89	3%
90–99	1%



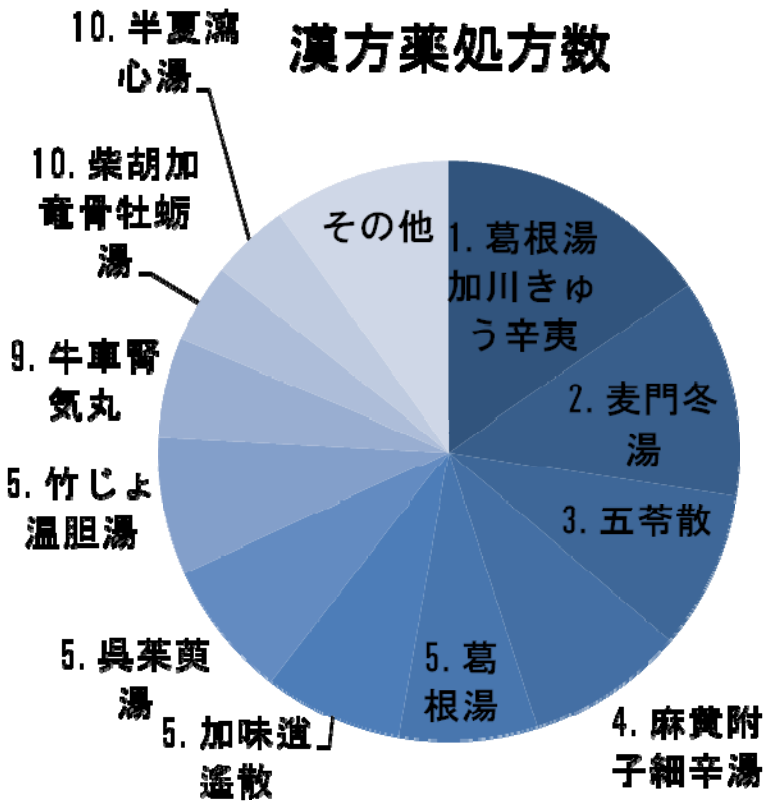
11月の外来(保険診療) 受診状況
疾患 (プロブレム)

1	呼吸器感染症(肺炎を除く)	54%
2	高血圧	13%
3	皮膚疾患	6%
4	胃腸炎	5%
5	喘息	4%
6	脂質異常症	4%
7	うつ状態 (精神疾患全体で)	4% (5%)
8	便通異常	4%
9	筋骨格系疾患	3%
10	頭痛・ふらつき	2%
10	内分泌疾患	2%
その他	線維筋痛症	
	リウマチ性多発筋痛症	
	肋軟骨炎	

11月の漢方薬処方状況（北西史直医師）

全レセプトに対し　23%
10歳以上に絞ると　53%
20歳以上に絞ると　56%

11月の漢方薬処方状況（北西史直医師）



上位10処方	上位10処方
1.葛根湯加川きゅう辛夷	15.4%
2.麦門冬湯	12.1%
3.五苓散	8.8%
4.麻黄附子細辛湯	8.8%
5.葛根湯	7.7%
5.加味逍遙散	7.7%
5.呉茱萸湯	7.7%
5.竹じょ温胆湯	7.7%
9.牛車腎気丸	5.5%
10.柴胡加竜骨牡蛎湯	4.4%
10.半夏瀉心湯	4.4%

当院での漢方薬処方から考察

①かぜ、急性気管支炎

- クリニカルエビデンス・コンサイス(2007年8月発行）で かぜには 抗ヒスタミン薬、うっ血除去薬に症状軽減にわずかな効果、急性気管支炎には有益なものがない
- 肺炎、中耳炎、副鼻腔炎、溶連菌感染症、マイコプラズマ・クラミジアを鑑別するのが重要だと教育されるが・・・

②緊張型頭痛、片頭痛

- 緊張型頭痛には抗うつ薬、片頭痛にはトリプタンが有効ではあるが・・・
- 水毒という考え方、冷えを温めるという考え方で長年の悩みが改善する症例も

③月経困難症、子宮内膜症、月経前症候群、閉経期症状など

- ピルなどホルモン製剤や抗うつ薬に対する敷居の高さ
- 抗不安薬の依存性の問題もあり・・・

④過敏性症候群、機能性胃腸症

- 案外消化管機能を改善する有効な（西洋）薬は少ない。あっても副作用が問題になりやすい。

⑤高齢者の腰痛、膝関節症

- NSAIDsには胃腸への副作用、理学療法の効果もはっきりせず

⑥冷え症、ほてりなど

- 日本人（東洋人？）独特の健康感
- 漢方には多くの武器がある

まとめ

- 総合医療現場では、西洋医学だけの考え方では、対応が困難な症例が多い。
- その中で、漢方医学の考え方で対応すれば、容易に健康をとり戻す症例も見られ、現在漢方薬を使用できない環境での診療は考えられない。
- 日本の総合医・家庭医が漢方医学を研修すれば、世界一の総合医・家庭医の集団になると確信している。

まとめ

- ある程度独学での研修も可能な領域ではあるが、腹診の指導を受けたり、日々の診療にフィードバックを得るなどの漢方医学の指導医による研修が望ましいと思われる。